

令和3年度 芸術科（書道）

教科	芸術	科目	書道Ⅲ	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	「書Ⅲ」（光村図書）						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

・書道Ⅲでは既習の書道Ⅰ・Ⅱをさらに深め、自らの興味・関心に基づき、学習する古典をいくつか選択します。選択した古典の書風や用筆法・運筆法などの特徴を把握するとともに、古典の時代性や精神性についても理解を深めます。

・用具・用材の準備や管理、作品、作品集の提出これらに留意してください。

2 学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組みようとする。	書表現の諸要素を感じ、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している	創造的な書表現をするために、書の効果的な表現の技能を身に付け表している。	文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評 価 方 法	観察 ワークシート 作品集	観察 ワークシート 作品集 作品提出	観察 ワークシート 作品集 作品提出	観察 ワークシート 作品集 作品提出

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	漢字の書の美と文化	【行草書】 座右銘 【隷書】 礼器碑 【楷書】 出師表・薦季直表 ・漢字作品卒業制作 ①半切 古典臨書 ②半切 創作 ・表具	○	○	○	○	a: 法帖や造像記、石碑など、様々な古典の個性的な美しさや様式美に関心を持ち、主体的に自ら選択した古典に取り組もうとしている。 b: 主体的に構想を具体化し、書風や線質、全体の構成などを工夫している。 c: 様々な古典の字形や用筆などの特徴をとらえ、書風を生かした表現をすることができる。 d: 様々な古典の個性的な美しさや様式美、表現技法を理解している。またお互いの作品の批評をすることができる。	観察 ワークシート 作品集 作品提出
		・秋萩帖 ・針切 ・創作 ・仮名作品卒業制作 ①俳句 ②百人一首 ・表具	○	○	○	○	a: 仮名古筆の書美に関心を持ち、意欲的に臨書や鑑賞に取り組もうとしている。 b: 主体的に構想を具体化し、書風や線質、全体の構成などを工夫している。 c: 仮名の用筆や線質などの特徴を理解し、書風を生かした表現をすることができる。 d: 古筆の書美とその表現方法を理解している。	観察 ワークシート 作品集 作品提出
2学期	漢字仮名交じり書の美と文化	・漢字の各書体に調和する仮名の工夫 ・粗密が描く紙面の均衡 ・響き合う行と余白 ・流れと躍動する書線 ・自分自身の表現を求めて ・思いと言葉をつむぐ書 ・近現代のさまざまな試み ・未来を彩る ・古典を基に卒業制作	○	○	○	○	a: 様々な作品の様式美や作者の精神性、美意識を理解しようとしている。 b: ことばと情景と表現の関係を考え、書風や線質、全体の構成など、創造的な表現を工夫している。 c: ことばと情景と表現の関係を考え、書風や線質、全体の構成を工夫することができる。 d: 漢字仮名交じりの書の名筆を味わい、ことばの情景を創造する表現技法を理解している	観察 ワークシート 作品集 作品提出

3学期	生活の中の書	<ul style="list-style-type: none"> ・年賀状・表彰状(小筆) ・表札(刻字) ・蔵書印(篆刻) 	○	○	○	○	<p>a: 書写の基礎的な能力を身に付け、その向上に努め、主体的に表現や鑑賞の活動に取り組もうとしている。</p> <p>b: 書道で身に付けた基礎的な能力を生かして表現を工夫している。</p> <p>c: 書道で身に付けた基礎的な技能を生かして表現している。</p> <p>d: 日常生活の書の効用について理解し、そのよさを味わっている。</p>	観察 作品集 作品提出
-----	--------	---	---	---	---	---	--	-------------------

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現
 c: 技能 d: 知識・理解

※ 年間指導計画(例)作成上の留意点

- ・原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。